

(人文社会科学系科目)

倫 理 学 〈 P 4 〉

教員名

教養・医学教育大講座 哲学
准教授 竹山 重光

I 一般学習目標

「信頼」(trust, Vertrauen)ならびに「責任」(responsibility, Verantwortung)という二つの概念を、歴史的連関も含めて分析し考察する。これら二つの概念が医学医療をめぐる頻りに語られ、問題化していることは周知であろう。しかし、実は、これらは20世紀になってあらためて問題化した現代的な思想問題でもある。そうした連関も可能なかぎり紹介して、分析し検討する。

II 個別学習目標

1. 医学医療をめぐる信頼と責任とがもつ重要性和問題性を説明できる。
2. 信頼という概念の構造を理解し説明できる。
3. 信頼という概念が人間にとってもつ重要性を理解できる。
4. 責任という概念の古典的意味と現代的意味とを区別とともに理解し説明できる。
5. 責任という概念をめぐる現代的議論を理解できる。

III 教育内容

この講義は、たとえば放送大学などでなされているような、ほぼ完全に一方通行のやり方で行なわれるのではない。倫理学や哲学という学問分野は、そういうやり方が最もなじまない分野の一つである。この講義は事項伝達をするのではない。思考を展開する試みである。

私は授業時間中に君たちにしばしば質問する。いわゆるコメント・ペーパーを書かせることもある。講述内容の大きな区切りにおいて、中間試験的なものを行うこともある。そして、それらの結果や君たちの反応を鑑みて、講述内容を取捨選択したり、講述順序を変更したり、講述の濃淡を変化させたりする。現在なされている最新の議論を紹介することもある。

したがって、いついつの授業ではこれこれの内容を取り扱うなどという仕方で提示することは、この講義については不適切であり、無理やりそうするとしたらむしろ不誠実である。倫理学や哲学の場合、そういう仕方にそもそもそれほど意味はないゆえ、以下に掲げる表はきわめておおざっぱな目安でしかない。変更はありうる。

講 義 日 程 表

No.	月日	曜日	時限	項 目	担当
1	04/13	月	2	共同存在と信頼など	竹山
2	04/20	月	2	共同存在と信頼など	竹山
3	04/27	月	2	信頼現象の構造解明など	竹山
4	05/11	月	2	信頼現象の構造解明など	竹山
5	05/18	月	2	信頼の危うさ、他者による行為選択など	竹山
6	05/25	月	2	信頼の危うさ、他者による行為選択など	竹山
7	06/01	月	2	賭けとしての、勇気としての信頼など	竹山
8	06/08	月	2	制限的信頼としてのICなど	竹山
9	06/15	月	2	責任の共同性と個別性など	竹山
10	06/22	月	2	責任の共同性と個別性など	竹山
11	06/29	月	2	人間主義的理解など	竹山

12	07/06	月	2	個別主義的理解など	竹山
13	08/24	月	2	責任主体としての集団など	竹山
14	08/31	月	2	責任と自由など	竹山

IV 学習および教育方法

プレゼンテーション・アプリケーションを用いた講述形式。紙媒体配布物も用いる。さらに上記Ⅲの文章も参照。

授業中に用いた補助手段の一部（スライド）は次に記す竹山の公式 Web Site で公開する。

<http://edu-pdc.edu.wakayama-med.ac.jp/kyweb/kantake/index.html>

V 評価の方法

筆記試験 100%が原則。中間試験的なものなども行なえば、それも算入する。

VI 推薦する参考書

ここでは特に指定しない。授業中に適宜紹介する。